

科目名	声優演技Ⅰ							年度	2025
英語科目名	Voice ActingⅠ							学期	前期
学科・学年	声優・演劇科 2年次	必／選	選	時間数	105	単位数	3	種別※	実技
担当教員	洲崎ゆり子	教員の実務経験		有	実務経験の職種		声優		
【科目の目的】 声優の仕事に必要な基礎的な発声・発音を身に付ける CDドラマ、アニメ、外面の表現の違いを知り、演じる事ができるようになる。 映像、画像に合わせ作品と一体化させる技術を身に付ける。									
【科目の概要】 声優に求められる演技表現を身体表現も合わせて学ぶ。									
【到達目標】 声優にとって必要な基礎発声、発音を反復。脚本を把握し、自らに与えられた約を分析。 周囲との呼吸を合わせつつ、映像に合わせられるようになる。									
【授業の注意点】 社会人としての常識をふまえ「あいさつ」「時間」を大切に。 共に学ぶ仲間へ敬意を持つ事。授業以外でも常に向上する意識を持ち、積極的にレッスンに取り組む。 水・お茶など糖分の入っていない飲み物は持ち込み可。 授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験できない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A 【成長】	一度言われた事を自主的に反復練習を行い、次回までに確実に修正でき、別作品の課題にも反映できる。		一度言われた事を自主的に反復練習を行い、次回までに確実に修正できている。		練習をしてこない。				
到達目標 B 【積極性】	苦手な役であっても、どんな役も積極的に取りに行き、前向きに授業に参加している。		できそうな役を演じる		挙手をしない				
到達目標 C 【スタジオ実習】	録音した自身の演技を、授業後も聞き返し、授業中に講師が伝えた事を理解し、全てできるようにし次回の作品にも反映できる。	録音した自身の演技を、授業後も聞き返し、授業中に講師が伝えた事を理解し、一部だけでも次回の作品にも反映できる。	録音した自身の演技を、授業後も聞き返し、授業中に講師が伝えた事を理解する事ができる。	録音した自身の演技を、授業後に聞き返さず、反復練習をしない。	自身の表現だけでなく、他の人のプレビューを聞いて勉強できない。				
【教科書】 使用する台本はその都度配布する。パソコン・タブレット・スマートフォンなどのモバイルツール、参考資料等は授業内で指示する。									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 小テストおよび期末テストにより採点。授業への積極性と参加態度を評価する。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		声優演技Ⅰ			年度	2025	
英語表記		Voice Acting Ⅰ			学期	前期	
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容		到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	ガイダンス	声の認識。感情の動きを確認。	1	発声・滑舌	声優にとっての必要な基礎発声と発音	2	
			2	声の距離感	1人称、2人称、3人称での距離を理解		
2	スタジオ実習	ルールを知る	1	発声・滑舌	声優にとっての必要な基礎発声と発音		
			2	声の距離感	1人称、2人称、3人称での距離を変化できる		
3	ドラマCD	台本の読み方を理解。	1	発声・滑舌	声優にとっての必要な基礎発声と発音		
			2	キャラクター表現	キャラクターの理解の仕方を学ぶ		
4	スタジオ実習	キャラ作り。感情の表現。	1	発声・滑舌	声優にとっての必要な基礎発声と発音		
			2	キャラクター表現	キャラクターから外れずに感情を表現する		
5	アニメ作品①	映像の合わせ方を学ぶ。	1	発声・滑舌	声優にとっての必要な基礎発声と発音		
			2	マイクワーク	タイムをとり、タイミングを理解する		
6	スタジオ実習	音声収録とプレビュー。 自身の演技を確認。	1	発声・滑舌	声優にとっての必要な基礎発声と発音		
			2	マイクワーク	共演者とのマイクの共有を学ぶ		
			3	キャラクター表現	キャラクターに合った表現か考えられる		
7	洋画	吹き替えならではの技術の習得。	1	発声・滑舌	声優にとっての必要な基礎発声と発音		
			2	台本	台詞だけでなく、表情から気持ちを汲み取る		
			3	表現	リアルに演じる		
8	スタジオ実習	アテレコ実習。ヘッドフォンの使用練習。	1	発声・滑舌	声優にとっての必要な基礎発声と発音		
			2	ヘッドフォン	役者の演技を聞きながら演じる		
			3	表現	リアルに演じる		
9		前回の技術を定着させる。	1	発声・滑舌	声優にとっての必要な基礎発声と発音		
			2	ヘッドフォン	役者の演技と呼吸を合わせる		
			3	表現	リアルに演じる		
10	アニメ作品②	習得した技術を作品を変えて応用する。	1	発声・滑舌	声優にとっての必要な基礎発声と発音		
			2	マイクワーク	タイムをとり、タイミングを理解する		
			3	キャラクター表現	キャラクターに合った表現か考えられる		
11	スタジオ収録	音声収録とプレビュー。 自身の演技を確認。	1	発声・滑舌	声優にとっての必要な基礎発声と発音		
			2	マイクワーク	共演者とのマイクの共有を学ぶ		
			3	キャラクター表現	キャラクターに合った表現か考えられる		
12		前回の技術を定着させる。	1	発声・滑舌	声優にとっての必要な基礎発声と発音		
			2	マイクワーク	共演者とのマイクの共有を学ぶ		
			3	キャラクター表現	キャラクターに合った表現か考えられる		
13	アニメ作品③	今までのマイク前の演技の総まとめ。	1	発声・滑舌	声優にとっての必要な基礎発声と発音		
			2	マイクワーク	タイムをとり、タイミングを理解する		
			3	キャラクター表現	キャラクターに合った表現か考えられる		
14	スタジオ実習	音声収録とプレビュー。 自身の演技を確認。	1	発声・滑舌	声優にとっての必要な基礎発声と発音		
			2	マイクワーク	共演者とのマイクの共有を学ぶ		
			3	キャラクター表現	キャラクターに合った表現か考えられる		
15		前期の総まとめ	1	発声・滑舌	声優にとっての必要な基礎発声と発音		
			2	キャラクター表現	キャラクターに合った表現か考えられる		
			3	まとめ	前期に学んだ事を理解でき応用する		
評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他							
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった							
備考 等							